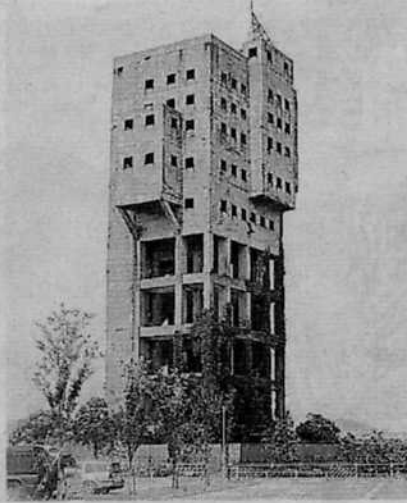


志免町・旧志免炭鉱立て坑櫓
飯塚市・旧伊藤伝右衛門邸

産業遺産に認定

産業考古学会



志免町の旧国鉄志免炭鉱跡の立て坑櫓（やぐら）と飯塚市の旧伊藤伝右衛門邸が、学術的文化的に価値が高いと評価され、産業考古学会（川上顕治郎会長）の推薦産業遺産に認定された。

旧志免炭鉱の立て坑櫓

している。

は一九四三―四四年、石炭産業の炭採掘に使われた建造物

で、高さ五三・六メートル。ワンホールとして、保存する

インディングタワー（巻き上げ）式の立て坑櫓と

半径四〇メートルにフェンスを

張るなどの安全整備を行

う予定だ。国内で唯一現存

炭鉱隆盛期の栄華を今に伝える旧伊藤伝右衛門邸



う予定だ。

「志免立坑櫓を活かす住民の会」のメンバーは

「県内から二カ所が認定

されるのは画期的であ

り、町や県の観光戦略の

力強い後押しになる」と

と

方に及ぶ。豪壮な庭園

も備え、炭鉱隆盛期の栄

華を今に伝える。

また、歌人の柳原白蓮

が暮らしたことでも知ら

れている。伝右衛門の妻

として迎えられ、駆け落

話している

る。

旧伊藤邸

は「筑豊の

炭鉱王」と

呼ばれた伝

右衛門が、

明治三十年

ごろに建て

た近代和風

建築。書院

風の木造二

階建てで、

延べ床面積

は千九百

平方

メートル

に及ぶ。

豪壮な庭園

も備え、炭

ちするまでの十年間を過

ごした。この間、二階の

専用書齋で大正ロマンあ

ふれる作品を数多く手掛

けており、産業遺産とし

ただでなく文学史的に

も注目を集めている。

飯塚市が買収し、来春

から一般公開する予定。

新たな観光資源として期

待を集める一方で、国の

重要文化財指定も目指し

ており、同市歴史資料館

の嶋田光一次長は「今回

の認定は弾みになりま

す」と話していた。

産業考古学会は一九七

七年創立。会員数約六百

人。産業遺産についての

調査・研究や、文化遺産

として保存するための評

価活動を行っている。